

生涯教育

2017
夏

季刊 No.114



2016年度 奨学生成果発表	2
美術研修「宇都宮・館林の美術館を訪ねて」	4
歴史研修「越後の城めぐり」	6
プロフィール・インタビュー 講談師 宝井 琴柑さん	12

いつでも どこでも だれでも学べる



公益財団法人 北野生涯教育振興会
KITANO FOUNDATION OF LIFELONG INTEGRATED EDUCATION



前列左から：晴山那緒子さん、小笠原紀子さん、
 鷹野和紀子さん、市橋淳平常務理事、吉村チヨノさん、
 江藤郷子さん、馬場さおりさん
 中央：安木美穂さん、宮崎理恵さん、藤森恵さん、
 茗荷谷徹さん、吉田知克さん
 後列：藤原弓子さん、戸倉博之さん、佐藤陽子さん、
 廣重徹さん、内田光裕さん、安喰由幸さん、近藤聖子さん、
 中野啓子さん

2016年度 奨学生成果発表

学び続ける 姿勢とともに

2017年3月24日、2016年度奨学金授与式・成果発表会が行われた。
 科目等履修生13名・放送大学大学院修士全科生7名の計20名が、
 それぞれの研究成果や今後の展望を発表した。

科目等履修生

内田 光裕さん

筑波大学大学院
システム情報工学研究科

ヘッドランプの光を夜の安全性に
 どのように生かせるかという研究
 を主に行った。以前からこの研究を
 行っていたが、この機会に、夜の視認
 性とはそもそも何か、世界的に見
 て夜の事故にどういった傾向がある
 のかといったベース的なことに立ち
 返り、博士論文としてまとめた。家
 族や会社の上司の協力もあり、無
 事に学位を取得することができた。
 研究の成果を、今後の業務に役立て
 ていきたい。

江藤 郷子さん

甲南大学
国際言語文化センター

授業での学部生、大学院生、そし
 て留学生との意見交換や討論を通
 して、自国文化を知り、日本文化を
 発信していくことの大切さ、そして

西洋中心の東洋観に翻弄されるの
 ではなく、文化相対主義の考えを
 大切にする重要性についての
 理解を深めた。また、社会に出てか
 らも学び続けることの大切さ、楽し
 さを学んだ。

近藤 聖子さん

関西大学大学院
総合情報学研究科

異文化交流について専門的に学
 びたいと考え、異文化間コミュニケー
 ションについて学んだ。異文化間コミュニ
 ケーションの派手で華やかなイメー
 ジとは対照的に、現実にはさまざま
 な問題が存在し、そうした問題と
 どのように向き合っていくかについて
 理解を深めることができた。これか
 らの自分の仕事にも非常に役に立つ
 のではないかと考えている。

佐藤 陽子さん

学習院大学大学院
人文科学研究科

以前から大学に行きたいという
 希望があったため、還暦の年に東京
 理科大学に入学した。卒論のテーマ

は大名屋敷。40年ぶりの勉強を通
 して、より良い論文を書きたいと考
 え、学習院大学大学院のゼミで日本
 史を科目履修している。科目履修
 生となり、自分のペースで取り組め
 るようになったので、家庭と両立し
 ながら、これからも続けていきたい。

鷹野 和紀子さん

神奈川大学
数理・物理学科

「始めるなら先延ばしにするより
 今やってみよう」「こんな面白いこと
 を知らないで生きていくのはもったい
 ない」という思いから、これまで全く触
 れてこなかった物理学について学んだ。
 基礎の力学や電磁気学、統計学、熱
 学から始まり、量子力学などの高度
 な学問にも取り組んだ。知りたいこ
 とを学ぶにはまだまだ時間がかかる
 ので、今後も続けていきたい。

戸倉 博之さん

國學院大学
文学部

社会人を対象とした宝飾や宝石
 について学ぶ会を立ち上げ、その運
 営を行い、参加者の質問などを聞い
 ているうちに「まず自分が学ばなけ
 ればならない」と考えるようになり、
 大学で社会教育について学んだ。4
 月からは國學院大学の博物館課程
 の修士課程に進むことになったため、
 そこで子どもたちに向けた、学ぶ
 会を立ち上げたい。



成果発表風景

中野 啓子さん

龍谷大学
文学部

2年間学んだ仏教学を通して、ス
 リランカの仏教儀礼について、文化人
 類学という視点から捉えてみたい。
 そのために文化人類学の基礎を勉
 強したいと考え、文化人類学の講義
 を受講した。4月からは龍谷大学
 大学院仏教学科に進むことになっ
 た。仏教学と文化人類学という二つ
 の立場から、スリランカの仏教事例
 を学んでいきたい。

馬場 さおりさん

九州産業大学
芸術学部

自身が若年性乳がんになったこと
 をきっかけに、病気を患っても、何歳
 になっても、教育を受ける機会は平
 等に与えられていると考え、科目等
 履修生として学芸員の資格取得を
 目標に勉強を始めた。無事に資格
 を取得することができ、生涯学習の
 大切さも学ぶことができた。年齢が
 一回り以上も違う学生たちと一緒に
 授業を受け、コミュニケーションの大切
 さを再確認する機会にもなった。

藤森 恵さん

明治大学
文学部 文学科

図書館司書の資格を取得するために、資格課程の科目等履修生になった。生涯学習概論、図書館サービス論の2つの授業が特に印象的であり、生涯学習の内容は多岐にわたること、現代の図書館はいろいろな人の「知りたい」という思いを支援する場所であるということを学んだ。資格課程での学びを修了し、図書館司書の職に就いた際には、学びを生かし、開かれた図書館を作りたい。

藤原 弓子さん

山形大学
地域教育文化学部

英語のもつ力を生徒に伝えたいと思い、英語の教員となったが、自身の目指す英語教育を実現したいと考え、大学院への進学を決意した。教育の基本は初等教育にあるのではないかと考えから幼稚園教育に関する講義を受講した。その後、障害を持つ子どもに指導する特別支援指導力から、英語教育に取り入れられるものはないかと学習をすすめている。今後は、アメリカへの留学を目指し、英語力と特別支援の基礎の力をつけていきたい。

宮崎 理絵さん

首都大学東京
人文社会学系国際文化コース

音楽活動を続ける中でドイツ語と出会い、もう一度大学で学びたい

と考えるようになり、ドイツ語ならびにドイツ語文化圏の文化や歴史について学んだ。大学でしか学べない科目も履修しようと思い、ドイツ語学特殊講義という科目も受講した。今、時代は何が起きてもおかしくない状況にあるが、自分の意思をもつて生きられるよう、日々広い知識を求めて頑張つていきたい。

安木 美穂さん

立命館大学
文学部

より多くの子どもたちに実践的な英語を教えたいと思い、科目等履修生として教職免許取得に向けて学習している。使える、伝わる英語を習得する上でも重要な国際理解教育に関する理解を深め、学びを支援すること、地域と関連をはかること、多様な人々と学びを創造すること、授業を運営することの4つの役割が教師には求められていることを学んだ。

吉村 チヨノさん

久留米大学
文学部 心理学科

子どもたちと関わりたいたいと考え、教員免許を取得するために科目等履修生になった。道徳授業法という講義で出会った、立石喜男による「カーテンの向こう」という作品に関わる授業を子どもたちを対象に行いたいと強く思った。問題を抱える子どもやその家族の支えとなるため、教員免許の取得と臨床心理士資格の取得に向け、大学院への進学を目指している。



奨学金を授与される吉村チヨノさん

**放送大学大学院
修士全科生**

安喰 由幸さん

慈覚大師円仁の東北巡錫、東北六県の伝承についての研究を行った。地域の歴史探索や民族伝承の研究東北の観光に役立ててもらえればと思う。大学受験失敗をきっかけに抱いていた学歴コンプレックスを乗り越え、学びの楽しさと研究の奥深さにますます魅了された。今後はさらに歴史学や民俗学の学びを続けていきたいと考えている。

井本 美子さん

私的財産、特許分野の仕事をしていくうち、自分も何か研究論文をまとめてみたいと考えてようになり、情報プログラムにおいて、テキストマイニングによる電子情報通信理論の解析というテーマで研究をすすめた。研究の結果が思わしくないと

きも、指導教員の助言をもらいながら研究をすすめる、無事に修士論文を提出することができた。

小笠原 紀子さん

文化政策は教育や文化の振興に重要なものであると考え、最終的に「美術館と学校の連携」というテーマで研究をすすめた。その結果、子どもへの教育に熱心な歴史博物館や科学博物館と比較して、積極的な連携の姿勢を示さない美術館と小学校の連携はあまり進んでいないことが分かった。今後は、完成した修士論文を少し要約し、学会誌に載せたいと考えている。

晴山 那緒子さん

「大学生の希死念慮と二次元レジリエンスと精神的健康の関連について」というテーマで研究を行った。希死念慮つまり、死にたいという気持ちを低下させるにはどのような援助や介入が重要か、その手掛かりを得ることが目的であり、自分や他者への理解を深めていく働きかけが有効であるということが分かった。大学院で学んだことを生かし、苦しみや悩みを抱える子どもたち、そしてその家族を心理的に支える臨床心理士になりたい。

廣重 徹さん

「航空機の運航を支える航空保安無線施設の性能と信頼性」というテーマで研究を行った。実際に地元の飛行クラブの方に協力を得て飛行機を飛ばし、データを収集した。そのデータをもとに、これまで定説的な形で議論されてきた航空機の動きを定量的に観察することに成功した。今後は、こうして知り得た事実を、教科書に載っていない航空機の動きとして関係者に知らせる活動をしていきたい。

茗荷谷 徹さん

大陸移動に関する新しい説を提示し、その内容で修士論文をまとめた。100年ほど前にウエルナーによって提唱され、揺るぎない事実として認識されている「大陸移動説」について再検討する余地があるのではないかと考え、放送大学大学院で研究をすすめた。地球科学ゼミだけでなく、天文学関係のゼミにも所属させてもらった。OBの参加も許可されているので、今後もゼミに参加し勉強するとともに、ゼミで聞いた話を論文にまとめ、学会誌で発表した。

吉田 知克さん

放送大学大学院の自然環境プログラムにて、原子、分子、電子といった微粒子を扱う量子化学と呼ばれる分野で学んだ。コンピュータを使って物質の振る舞いを計算で予測する、計算科学という分野の研究を行った。現在、放送大学教養部の学生でもあるため、学部の卒業研究でこの研究を再び行い、学会誌に投稿したい。

「美術鑑賞」(その54)

2017年3月28日(火)

宇都宮・館林の美術館を訪ねて

穏やかな春の一日、宇都宮と館林に2つの美術館を訪れました。宇都宮美術館では「宇都宮美術館開館20周年記念-ベルギー奇想の系譜展」、群馬県立館林美術館では企画展「清宮質文と版画の魅力」を鑑賞しました。

渋谷を定刻に発車したバスの中、講師の沼辺信一さんの発話から研修が始まりました。私たちはこの美術研修で、実にさまざまな美術館を訪れました。「絵を見る力」はもちろんですが、「美術館を見る目」も確実に育っています。続けていると、その美術館の「どんなところが素晴らしい」「こんな欠点がある」ということがわかるようになってきます。

ところで、都内の美術館はどうでしょうか? 展覧会のための入れ物になっていませんか? ぜひ海外に行ってみてください。パリ、ロンドン、ベルギー、サンクトペテルブルグ、ニューヨーク。どれもそれぞれ建物やロケーションのことも考え、もちろんコレクションや展覧会のことまで目を光らせて考えている美術館がたくさんあります。

日本でも、地方にはまだ訪れたことのない知らない美術館がたくさんあります。美術館を訪れたら、一つひとつの作品を丁寧に鑑賞するのはもちろんですが、美術館全体を見て、美術館自体を味わってみてください。その美術館の考えに触れ、そこに身を置いて時を過ごす醍醐味を知ってください。わざわざ出かけていくと、アツと驚く体験がきっと待っています。

さて、今日最初に訪れる宇都宮美術館は20世紀のデザインミュージアムにふさわしい素晴らしい美術館です。ベルギーコレクションのよりすぐりとともに味わいましょう。



宇都宮美術館にて

宇都宮美術館

宇都宮市制100周年を記念して1997年(平成9年)にオープン。里山の姿を残す緑豊かな自然環境の中に所在している。国内外、主に20世紀以降の美術、デザイン、宇都宮ゆかりの美術作品を収集・公開している。開館準備の1996年、ルネ・マグリットの「大家族」を600万ドルで購入したことが話題となった。

宇都宮美術館開館20周年記念展は、ベルギーに生まれた独自の幻想的な絵画の系譜を、現代までの500年にわたって探るといえるものです。ヒエロニムス・ボスが描く悪魔や怪物は迫真性に満ち、こうした表現は後の「奇想画」「象徴主義」「シュルレアリスム」と形を変え、今日のアーティストたちに受け継がれています。この一連の流れを



特産大谷石が使われた
エントランス

群馬県立館林美術館

2001年に群馬県2館目の県立美術館として開館。近現代美術、なかでも「自然と人間」をテーマとして、調和、共生、対峙など自然と人間のさまざまな関わりを表現した、国内外の作品を収集している。動物彫刻家フランソワ・ポンポンの作品も多く収蔵し、別棟「彫刻家のアトリエ」では彼のパリのアトリエの雰囲気を再現している。

群馬県立館林美術館で鑑賞した清宮質文は生誕100年を迎える木版画家で、彼の作品は穏やかで詩的な心象世界で知られています。展覧会は彼の代表作が一堂にそろい、生涯の画業をたどることができる構成になっています。彼が若い頃魅了された影響をうけたという、オディロン・ルドンやムンクの作品、また南桂子ら日本の版画家の作



池と造形的盛土で囲まれた建物は
水面に浮かび上がる島を
イメージしている



ルネ・マグリット 「大家族」宇都宮美術館所蔵
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017 G0931



ヒエロニムス・ボス工房 「トウヌグダルス
の幻視」ラサロ・ガルディアーノ財団
© Fundación Lázaro Galdiano

およそ120点の作品を通して鑑賞しました。
宇都宮美術館では、企画展、コレクション展、それぞれの見どころについて学芸員の方にお話いただきました。
(以下抜粋)

①企画展の大きな呼び物、ヒエロニムス・ボス工房「トウヌグダルスの幻

視」は科学調査の結果、ヒエロニムス・ボスの工房で彼が存命中に制作されたらしいということがわかりました。ボスは真筆とされる作品が20点ほどしかありませんから大変貴重な作品といえます。

②「ベルギーはドイツやフランスの間にある小国で常に戦場でした。すぐそばにある死を、強かに、時には笑いをもって、また皮肉なユーモアとして描こうという姿勢がベルギー美術には貫かれています」と本展のベルギー側のキュレーターが話してくれました。

③ルネ・マグリットの代表作「大家族」の見せ方をさまざまに取り組んできていますが、今回はベルギーの奇想という歴史の縦軸をとり、歴史の中にマグリットをおいてみようという試みです。(伊藤学芸員)

④コレクション展は5つの章立てで美術館の顔となる作品を展示しています。「絵はどれだけ説明しても伝わってきません。ぜひご自分の目でご覧になってください」(福島学芸員)

昼食は道の駅うつのみやにて、地元
の食材をおいしくいただきました。産
直野菜や名物の宇都宮餃子などを買
い求める参加者もいました。午後は館
林へとバスを走らせました。

品も展示されていて、多様な版画の魅
力を感じることができました。別棟の
「彫刻家のアトリエ」では、動物彫刻家
フランソワ・ボンボンのアトリエが再
構成され、彼が実際に使用していた家
具や道具を見ることができました。彼
の没後に铸造された作品の一部もこの
アトリエに置かれています。

「館林美術館は、館林という東京から
そう遠くないところに15年間も存在し
ていますが、知らない人が多いことに
驚かされます。これほど良い場所はない
ですね。東京にこんな場所はありま
せん。広々としたロケーションがうらや
ましいです。この景色はぜひこのまま
残してほしいものです。開館は2001
年。21世紀になってからの建物は、スツ
キリと洗練された印象でした。軽やか
で自己主張しすぎない、訪れた人を落
ち着かせる居心地のいい場所でした。
必要に応じて窓を大きく開け外光を取



バリー・フラナガン 「鐘の上の野兎」が
迎えてくれる



清宮眞文 「深夜の蠟燭」
群馬県立館林美術館寄託



フランソワ・ボンボン 「シロクマ」
群馬県立館林美術館所蔵

り入れ、外と中を一体化させる、融合
させるといったことが考えられています。
彫刻だから外光が入っても良いのです
が、置かれている作品が幸せそうに見
えました。わざわざ訪ねていって本当
によかった美術館でした。今回は9
月に山陰地方の研修を予定しています。
また皆さんとお目にかかれればうれし
いです」と沼辺さんが話を結び、バス
は渋谷へと到着しました。

歴史研修（その8）

2017年4月11日(火)～12日(水)



桜ほころぶ
新発田城 三階櫓前にて



越後の城めぐり

今回は、戦国時代に活躍した上杉謙信ゆかりの土地である越後を訪れました。「義」の武将と称され、今も多くの人たちに愛されている上杉謙信。その生涯に大きく関わった栃尾城、村上城、新発田城を、小和田哲男先生の解説とともに2日にわたって巡りました。上杉家、越後の歴史、そして各城についての理解を深める研修となりました。

静岡大学名誉教授
解説 小和田 哲男さん

4月にもかかわらず、本丸に登る山道には雪が残っていましたが、希望者のみ本丸をめざしました



雪の中で
水芭蕉がお出迎え



馬の背状の本丸から栃尾の町を望む

栃尾城

一行が最初に訪れた栃尾城は、栃尾市街地の西に位置する鶴城山に築かれており、上杉謙信が春日山城に上るまでの青年期を過ごした城郭です。謙信はわずか14歳で中越地方の反乱・暴動をしずめるため、兄である晴景の命により栃尾城に入りました。そしてこの地で旗揚げをし、数々の武功を打ち立て、その名を全国にとどろかせました。栃尾城は北に向けて突き出した険しい山稜を利用して築城

され、その規模は圧倒的に大きく、別名鶴舞城とも呼ばれています。謙信はこの城で6年ほどを過ごし、19歳で生涯の居城として知られる春日山城に入りました。

上杉謙信コンパクトガイド



上杉謙信とは？
「義」の武将と称された
戦国時代の猛将
1530～1578年

「軍神」と呼ばれた男

「越後の虎」と呼ばれるほどの風貌があったといわれる謙信公。幼名を虎千代、元服して景虎、出家して法名を謙信と号し、養父である上杉憲政の跡を継いで関東管領職となったのちに、よく知られている上杉謙信と名になりました。生涯で70を超える戦を行った戦国時代の猛将であり、越後に平和な社会を築き上げ、人々に心の安定をもたらしました。生涯一度も越後の敵の侵入を許さなかったとされています。

ビジネスマンとしての一面も

「義の人」と称される上杉謙信ですが、泊・柏崎・直江津の3つの港に出入りする船から関税を取りたてるなど、商業活動も活発に行っていました。「敵に塩を送る」という言葉の語源となった、謙信が宿敵である武田信玄に塩を送ったというエピソードには、塩不足に悩まされていた信玄や領地の人々を助けるという目的に加え、塩がなくなって困っている今なら、日本海産の塩を売りにいけばお金を稼げるという狙いもあったとされています。

村上城

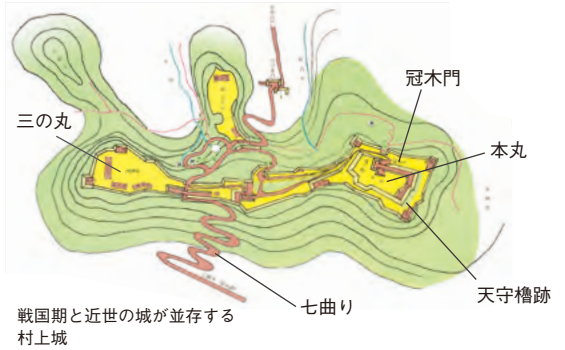


七曲りの登り口で解説を聞く参加者

翌日訪れた村上城は、村上市街の東端に横たわる臥牛山を中核とし、西から北をめぐる平地を広く取り入れ、三面川を北側の守り

【石垣の積み方】

石垣の積み方には、自然石をそのまま積み上げる野面積み、表面の石を叩き平たくして積み上げる打ち込みはぎ、方形に整形した石材を積み上げる切り込みはぎなど、さまざまな種類があります。なかでも石垣の出角部分は崩れやすく、特殊な積み方をする事が多い箇所になります。算木積みは、占いで使用される算木のように、長い石を互い違いに組み合わせることで強度を上げるものです。天守台付近の石垣にも算木積みが見られます。



戦国期と近世の城が並存する村上城

【冠木門石垣の鏡石】

重要な城門の側に置かれた大きな岩は鏡石と呼ばれ、城に侵入しようとする兵を威嚇するねらいがあったとされています。大阪城の正面にあるものは遠くから運ばれたものと推定されていますが、今回訪れた村上城の鏡石は、もともとその地に存在した岩を使用したものと考えられています。



とした平山城です。村上城を本拠地として威勢を振るっていた本庄繁長と次第に対立を深めていった謙信は、永禄11（1568）年、軍を率いて進攻し、繁長は抵抗の末に降伏しました。この戦の舞台となったのが村上城でした。戦国時代というのは、既定の身分にとられず、手柄を立てて自分の価値を少しでも高めようと考えた時代でした。手柄を立てた領主には褒美として土地を与えなければなりません。領土拡張のため、謙信は農閑期の冬場に農民を兵に仕立て、三國峠を越えて関東へ

最後に訪れた新発田城には、「御館の乱」と呼ばれる上杉家の一大争乱が深く関わってきます。生前、謙信は正式に後継者を確定していませんでした。謙信の死後、甥にあたる景勝と養子である景虎との間に後継者争いが起きました。これを「御館の乱」といいます。この争いにおいて家臣の新発田重家は景勝側につき、勝

新発田城



舞鶴城址の碑がある村上城天守

攻め入ったといえるかもしれません。謙信は、本庄氏などの国人領主を武力でおさえ、越後を統一し、戦国大名へのし上がっていったのです。

利に大きく貢献したにもかかわらず、新発田一族には景勝から恩賞が与えられませんでした。これによって両者は対立し、天正9（1581）年から7年間にわたる戦いが起こりました。この戦いで新発田城は陥落し、重家以下は族滅へと追いやられてしまいました。



新発田城表門



珍しい三尾の鯨を載せた三階櫓
日本100名城に選定されている



新発田城 旧二の丸隅櫓
櫓の腰壁は白いつくいに瓦をはめ込んだ海鼠壁で仕上げられている。北国特有の防寒対策でもあるが、デザイン的にも白と黒のコントラストが美しい

した。その後、慶長7（1598）年に豊臣秀吉から新発田の地を与えられた溝口秀勝により、この地に新たな居城および城下町が建設されました。なお、現在日本丸跡は陸上自衛隊新発田駐屯部隊の用地となっています。

2017年奨学金授与式開催

◆音楽奨学生 ◆彫刻奨学生

音楽奨学生 奨学金授与式

2017年4月6日、愛知県立芸術大学において、第9回音楽奨学生奨学金授与式が、入学式終了後の音楽学部新入生オリエンテーション会場で行われました。

この奨学金制度は当財団が芸術振興の一助として、同



増淵有三評議員より奨学金授与

大学の学生を対象として2009年より実施し、今年で累計28名の奨学生になりました。栄えある奨学生に選ばれた3人は、自分もいつか奨学生に選ばれたいと願う新入生の熱い視線を浴びて、財団の増淵有三評議員から奨学金を授与されました。



萩賢輔さん (ピアノ)



牧野葵さん (ヴァイオリン)



細川杏子さん (フルート)

彫刻奨学生 奨学金授与

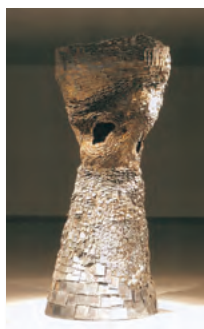
2017年6月23日、財団ホールにおいて、第33回彫刻奨学生奨学金授与式が行われました。この奨学金制度は1985年から実施されており、今年の5名を加え、119名が奨学生に選ばれています。今回の奨学生と作品は下記の通りです。



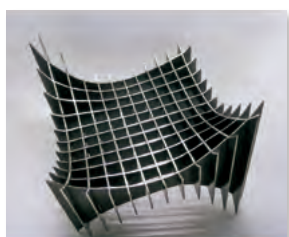
前列左から、鞍掛日本大学教授、大槻日本大学教授、市橋常務理事、平戸女子美術大学教授、村井多摩美術大学教授
後列左から、福井さん、川口さん、柴田さん、近藤さん、巾崎さん



「再生」
福井 敬貴さん
(多摩美術大学大学院)



「皮肉を失くす性」
川口 透さん
(日本大学大学院)



「因子」
柴田 直起さん
(日本大学)



「目玉クリップ」
近藤 貴章さん
(日本大学)



「くいしんぼう」
巾崎 知佳さん
(女子美術大学大学院)

50代から考える 夫婦のライフプラン講座を開催



2017.6.3(土)

昨年の第6回より、1日のセミナーとして開催しています。今回は新たにより多くの夫婦の方に参加していただくことを目的として参加年齢を引き上げて、50代から考える夫婦のライフプランとして2017年6月3日に渋谷エクセルホテル東急においてセミナーを開催いたしました。

事前準備で 豊かな老後を

現在は65歳以上と定義されている「高齢者」を75歳以上に見直すよう求める学会提案がなされています。また、「ライフ・シフト」の著者リンドグ・グラットン氏によれば、今後は100年生きる前提での人生設計が必要であるとも言われています。今後の皆さんのライフプランを専門講師の指導によって自ら作成していただきました。

夫婦単位を原則として、夫婦いずれかが50歳から64歳までの方々6組11名が参加いたしました。初めは緊張していた皆さんも講師の方々の和やかな雰囲気の中で講義に、次第にリラックスされていきました。内容は、定年



基調講演をされる
井上講師



夫婦で「長期家計プランの作成」風景



「年金に関する基礎知識」を
解説される大橋講師



「健康管理について」
解説される津坂講師

後のお金の計算を基に専門の講師の指導を受けて夫婦でライフプランの作成に取り組み、定年後の生活設計を具体的にイメージしてもらおうものです。講師は、(株)活性化セミナー研究所代表の井上国春氏ら3人です。はじめに同社ライフプランコンサルタントの井上講師による基調講演「働きざかりをいきいき」と題して、生きがいに関わる4つの心配事についての講演で、次に大橋講師が年金に関する基礎知識について解説されました。

昼食後は、60歳～80歳までの20年間の長期家計プランの作成の説明がありました。その後、講義内容からご夫婦でライフプランを作成していただくところまでですが、時間の都合上作成は各自帰宅後に夫婦で話し合い作成していただくことになりました。その

後は、ライフプラン「知恵の交換会」と題して、参加者全員による生活の切り口について、自由に討議を行い、お互いの情報共有を行いました。セミナーの最後は、健康運動指導士の津坂講師が食事や運動などの健康管理の情報を紹介。参加者は教室内で軽く音楽に合わせて体操を行い、運動の前後の心拍数の違いを確認しました。また腰痛予防に効果的な筋トレ、ストレッチの方法や脳の健康度チェックなども行いました。脳の健康度チェックの設問には、この設問にチェックがついたら医師に相談して画像検査の実施が望ましいという項目もあり、参加者は真剣な眼差しで設問に取り組んでいました。

講義やグループ討議を経て、受講者には健康・お金・時間・生きがいなどについて真剣に考え、豊かな老後を送れるように事前準備の必要性を感じていただきました。作成したプランも年に1回見直しメンテナンスすることで、より良いものになるとのアドバイスをいただきました。参加された受講者の方々は、事前準備も含めてライフプランセミナーを積極的に受講されているのが大変印象的でした。セミナーに参加した受講者からは非常に良かった、勉強になったというアンケートの回答をいただき開催の意義を感じています。

ご報告



あの日をわすれない。

3・11に集い、祈り、学ぶ。

東日本大震災鎮魂 コンサートvol.4

—あれから6年命の絆今ふたたび—

2017年3月11日に、当財団主催の「東日本大震災鎮魂コンサートvol.4」が、パーシモンホール小ホールを満席にして開催されました。

14時46分、地震発生の時間に合せて全員で黙祷を捧げた後、第一部では宝井琴柑さんによる講演「エルトゥールル号の遭難」山田寅次郎の足跡」が語られました。1890年に、トルコの軍艦エルトゥールル号が台風のため、和歌山県沖で500名以上の犠牲者を出して遭難した時の話です。第二部では、公募で募った70



名の合唱団が半年かけて練習に励んで舞台上立ち、フォーレ作曲「レクイエム」およびモーツァルト作曲「アヴェ・ヴェルム・コルプス」を歌いました。

本コンサートの初回から指揮



講談：宝井琴柑さん



指揮：象原裕介さん

をしてくださっている象原裕介さんが、イタリア留学中にもかかわらず、一時帰国して指導をしてください、指揮者のタクトのもと会場は鎮魂の気持ちでひとつになりました。

コンサート後の解団式において、指揮者はじめソリストから感謝と感謝の挨拶がありました。その場で、来年3月11日の東日本震災鎮魂コンサート開催決定の報告があり、合唱団メンバーから再会を誓う声があちらこちらで聞かれました。



バリトン独唱：大元和憲さん



ソプラノ独唱：松本直子さん

なお、チケット収入は被災地に役立てていただくよう、青木英二目黒区長に届けられました。

2016年度 南開大学・天津大学 奨学金授与式開催

2017年3月14日、中国天津にある南開大学および天津大学において奨学金授与式が行われました。中国での奨学金制度発足以来、南開大学は18年、天津大学は14年を迎え、奨学生の累計は、2校合わせて382名となりました。



南開大学：奨学金授与式会場風景



天津大学：奨学生と関係者の皆さん

当日は南開大学 白云龍先生、天津大学 馬徳剛先生出席のもと、両校とも天津スタンレー電気株式会社藤井雅之総経理より、奨学生各10名に5千円の奨学金が授与されました。

2017年度 財団奨学生決定

今年度の財団奨学生が決定しました。たくさん応募の中から、科目等履修奨学生15名、放送大学選科履修奨学生15名、放送大学大学院修士全科履修奨学生10名が選ばれました。今後の成果に期待します。

科目等履修奨学生

氏名(年齢)	履修大学
秋山 和江(63)	山梨英和大学
阿部 涼子(27)	立命館大学
出井 陽子(34)	自治医科大学大学院
小山 文彦(65)	龍谷大学
嘉澤 剛(33)	京都大学
熊田 小百合(22)	明治大学
齋藤 育代(65)	立正大学
齋藤 紀末恵(24)	慶應義塾大学大学院
佐々木 友香(24)	東北福祉大学
柴崎 義雄(68)	立正大学
清水 優美(23)	国立音楽大学
張 依明(23)	早稲田大学
藤原 聖史(38)	早稲田大学大学院
行澤 雅代(22)	國學院大学
渡邊 ゆう(30)	東京藝術大学

放送大学選科履修奨学生

氏名(年齢)	氏名(年齢)
今井 菜子(40)	中嶋 寛子(40)
奥田 幾久子(50)	藤田 淳子(46)
鹿野 弘子(46)	藤原 真理(51)

嵯峨 浩樹(55)	宮坂 達(45)
左右 潤子(41)	山下 香苗(49)
重田 康代(45)	横山 絵理(30)
嶋田 順子(56)	渡部 奈津子(49)
谷口 結子(36)	

放送大学大学院修士全科奨学生

氏名(年齢)	氏名(年齢)
恵谷 美香(44)	羽室 倫子(44)
亀山 博美(66)	宮野 慎太郎(39)
栗田 裕子(55)	室町 めぐみ(41)
小林 大二(68)	山本 晃一(49)
小峰 茂(52)	寄谷 綾(34)

お知らせ



デジタル一眼レフカメラ入門

デジタル一眼レフカメラの入門講座です。講義・撮影実習・講評・懇親会など盛りだくさんな内容で、作品展を後日開催します。

日程	会場
8月29日(火)～30日(水)	スタンレー サバーンオフィス サーフサイド(鎌倉)他

美術研修(その55) 山陰の美術館を訪ねて

高根県立美術館、足立美術館、植田正治写真美術館を訪れます。

日程	定員
9月20日(水)～21日(木)	40名

表紙ギャラリー

当財団の使命は、一生学び続ける人を応援することです。学ぶ人が、今日よりも明日、一歩でもよくなるよう努力するには、目標が必要だと思います。そこで、世のため、人のために偉業を成し遂げた偉人を目標に掲げたいと考え、財団機関誌の表紙に登場いただくことにしました。

岡倉天心

(1863～1913)

天心は、父親が越前藩出資の商館「石川屋」の支配人であった頃、横浜で生まれました。もともとが武家の出であったため、漢籍を学びましたが、横浜という土地柄、英語塾でも学びました。帝大生の天心は英語が得意だったことから、同大教授フェノロサが日本美術を蒐集するに際し、助手を務めました。古美術調査の経験を積む中、天心は文明開化の時代の波にのまれ、廃仏棄釈により仏像が破壊されるのを憂い、古美術の保護に強い関心を持ちました。その頃、天心とフェノロサの二人は、長い間秘仏としてその姿を拝むことができなかった法隆寺夢殿の救世観音を開扉する機会に恵まれました。天心の古美術保存の精神は、今日の文化財保護の礎になっています。

また、天心は東京美術学校(現東京藝術大学)初代校長、日本美術院創設、ボストン美術館東洋部長に就任するなど、近代日本美術の発展に大きな功績を残しました。日本美術院創設の初期には、横山大観、下村観山、菱田春草、竹内栖鳳らが集い、華々しい活躍をしています。英文での「茶の本」執筆、インドの詩聖タゴールとの親交、オペラ台本「白狐」執筆と、天心の活動は多岐にわたっています。



人生の後半10年、太平洋を望む茨城県五浦から東洋の価値観を世界に発信した天心は、50年の短い生涯を駆け抜けていきました。

こ・ち・ら・編 集 室

今年の歴史研修で訪れた新潟県長岡市栃尾は、豪雪地帯として知られています。四月中旬に現地を訪れたにもかかわらず、あいにくの雨降りに加え、栃尾城本丸近くの山道にはかなりの雪が残っていました。わざわざ遠くから来てくれるのだからと、地元観光協会のNさんが、直前に下見して、スコップで積もった雪に道筋をつくっておいてくださったお蔭で、希望者全員怪我もなく本丸に到達しました。本丸からの見晴らしが良く、往時、敵が攻めてくる様子が一目で見渡せる場所、若き謙信が采配した姿を思い浮かべることができました。

上杉謙信といえば、「義」の人として有名ですが、義の心が脈々と続いているのでしょうか、我々一行を温かく迎えてくださった地元の方に、感謝の気持ちでいっぱいです。昼食にいただいた栃尾の「あぶらげ」も、おいしかったです。新潟は「米どころ、酒どころ」と言われますが、瀬波の宿泊は越後の人情とともに美酒に酔った夜でした。当財団主催の研修会では、日本各地を訪ねますが、現地で知ること、体験することに加え、訪れる人々を出迎えてくださる地元の方との交流も楽しみのひとつです。

設立目的

当財団は、スタンレー電気株式会社社の創業者北野隆春の私財提供により、生涯教育の振興をはかる目的で1975年6月23日、文部省(現文部科学省)の認可を得て発足しました。当財団は、いつでもどこでもだれでも学べる体制をつくり、学ぼうとする方々に対し、より豊かな生きがいを持つよう、時代が求める諸事業を展開してまいります。

生涯教育だより

第114号

2017年7月10日発行
編集人 市橋 淳平
発行人 北野 重子
発行所 公益財団法人
北野生涯教育振興会
〒153-0053
東京都目黒区五本木
1丁目12番16号
電話 東京 03 (3711) 1111



講談師

宝井 琴柑さん

TAKARAI KINKAN

講談を聞く機会を広く提供し 日本の話芸を次世代に伝えたい

当財団の催し物にご登場いただき、その話芸で観客を魅了している講談師の宝井琴柑さん。ほぼ毎日のように高座に上がられている一方、講談教室の講師としても活躍されています。講談師になられた経緯や生涯教育についてのお考えなどをお聞きしました。



—宝井さんが講談師を志したきっかけは何ですか。

初めて講談に出会ったのは、3歳のときです。両親に連れられて上野池之端の本牧亭で、後の師匠であり、両親の友人でもある宝井琴星の講談を聞きました。幼いときから講談が身近にあり、中学生になると宝井講談修羅場塾という講談教室に入って、習い事として講談を始めました。宝井講談修羅場塾は、1976年に六代目宝井馬琴によつてアマチュア向けに開設された講談教室です。生徒は中高年の方が多く、中学生は私のみ。皆さんに「うまい、うまい」と言われ可愛がられながら、高校卒業時まで続け

ました。習い事としては珍しいものだったので、自分の個性の一つになっていましたね。

大学は、山形大学の文学部に進学しました。その理由は、高校の修学旅行で山形の高畠町でファームステイをしたことがきっかけで、農業への憧れが募ったからです。卒業後は、書籍の編集にも興味があったので、両方の興味を満たすことのできる農業系の出版社に就職しました。新入社員が通る道として、全国の農家を行脚し、雑誌の定期購読や事典の営業活動をしていたのですが、相手の気持ちを動かす営業トークは、話芸そのものだというのに気づきまして、講談をやりたいようになって、8カ月で会社を辞めてしまいました。塾通いを復活し、思いきってプロに入門。宝井琴星の一番弟子になりました。大師匠である六代目宝井馬琴のアシスタントをする機会もあり、孫弟子として随分可愛がっていただきました。

—講談師の修行とは、どのようなものなのでしょう。

私の師匠は、細かいことは何も言いません。「言いたい事は山ほどあるけれど、言うレベルにない」と言われたこともあります。師匠は、細かく指導すれば小手先の技術は

身に付くが、芸は、技術のうまい、へたを超越したところにあるというお考えです。現在私も宝井講談修羅場塾の初心者コースで、アマチュアの方を指導させていただいていますが、教える側になって、師匠がおっしゃっていたことがよく分かります。

入門すると前座として、着物の準備やお茶出しなど、師匠や先輩のお世話をします。下働きで、場の空気を察する訓練が、お客様の気持ちを察することにつながるため、必要な修行です。最初の頃は親元から通っていました。が、「芸人が堅気の家に入るようではだめだ」と言われて、安アパートで自活を始め、芸人の了見を示したところ、前座仕事も増え、4年後には二ツ目に昇進することができました。

—今、レパートリーはどのくらいありますか。

100席くらいありますが、仕事の半分は発注を受けて、資料から創作しています。結婚式で披露するお二人のなれそめや、企業の周年パーティーで披露する創立者の物語などがあります。私自身が好きなのは、軍記物。一人で数万人の軍勢を表現できるのは講談ならではのですね。ちなみに、先日お客様からリクエストを募ったところ、

ろ、「塚原ト伝」「横浜のへボン博士」「山本周五郎原作糸車」が上位でした。

—生涯教育についてはどのようなお考えですか。

高齢者が増えるこれからの時代、生涯教育は教育全般の中で、ますます重要な位置づけになるのではないのでしょうか。リタイア後の人生は、フラットに仲間づくりができるかどうかにかかっていると思います。聞いた話では、お勤めしていたときについていた役職の感覚を外すためのセミナーもあるそうですよ。

—今後の抱負をお聞かせください。

今、講談を聴きに來てくださる方の多くは、かつて講談を聴いた経験がある世代で、これから先、全く聴いたことのない人が聴きに來てくださることはなかなかないと思います。そこで、子どもたちに講談を聴く機会を提供したり、子ども向けの講談の本を出版したりすることを目標にしています。

—読者にメッセージをお願いします。

ぜひ、講談を聞きに來てください。私の出演情報はブログで公開していますので、思い立ったらお気軽にどうぞ。

「宝井琴柑さんのブログ「こよみ草子」」
<http://takaraikinkan.seesaa.net/>

高座での宝井琴柑さんは凛としていて、迫力のある話芸で講談の世界にぐいぐいと引き込まれてしまいます。私服に着替えると、印象ががらりと変わって優しい雰囲気。子どもたちに講談を知ってほしいと話す宝井さんは、優しいお姉さんそのものでした。一度聴くと癖になる講談の世界。ぜひ、近いうちに足をお運びください。



東日本大震災鎮魂コンサートVol.4にて(2017.3.11)